

PMDA 医療安全情報

(独)医薬品医療機器総合機構

pmda No.48 2016年 1月

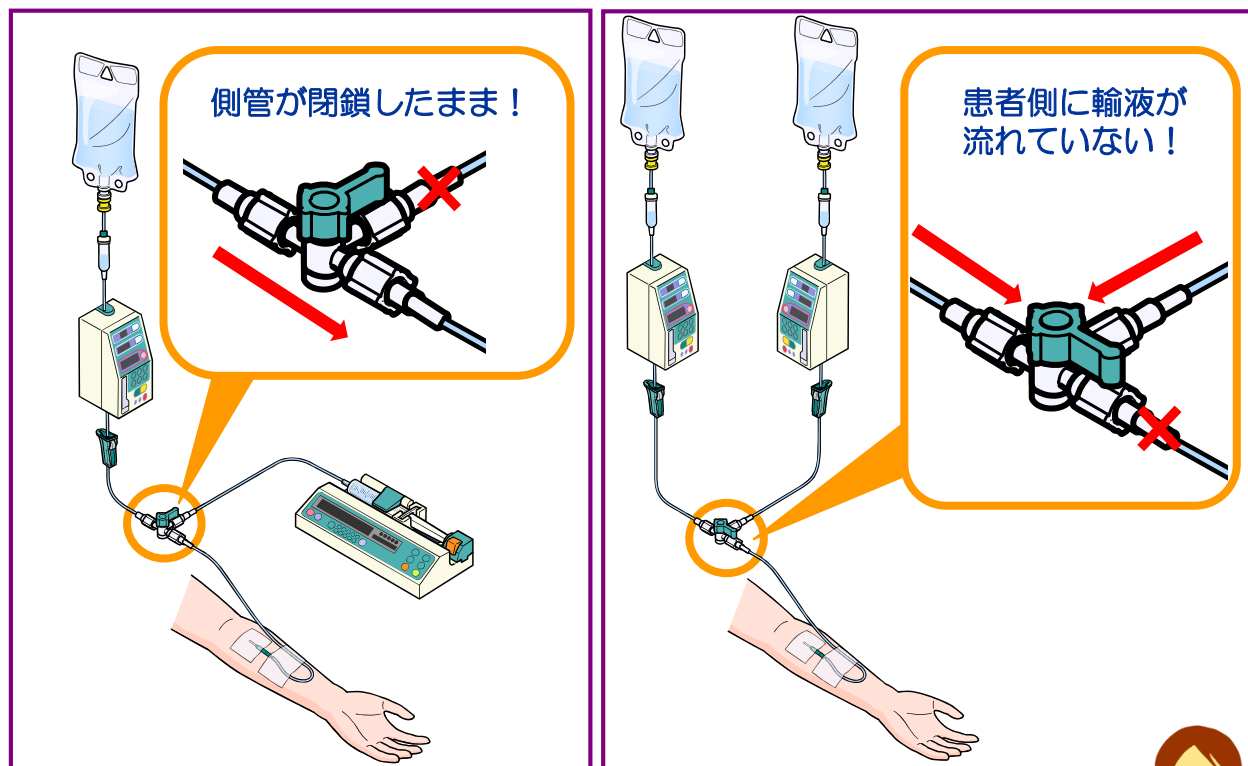
三方活栓の取扱い時の注意について

POINT 安全使用のために注意するポイント

- (事例1) 点滴チューブを側管に接続した際、三方活栓の向きを変えずに点滴開始をしたため、30分間薬液が流れず、シリンジポンプの閉塞アラームが鳴って気がついた。
- (事例2) 処置のため、一時的に三方活栓の患者側をOFFにした後、元に戻すのを忘れ、輸液ポンプの閉塞アラームが鳴って気がついた。

1 三方活栓使用時の注意点 (その1)

- 三方活栓使用時は、コック/バーの位置を確認すること。



コック/バーの位置確認が必要な場面は、たくさんあります。
三方活栓を操作した後は、必ず最後に薬液の流れている方向を確認する習慣をつけましょう。

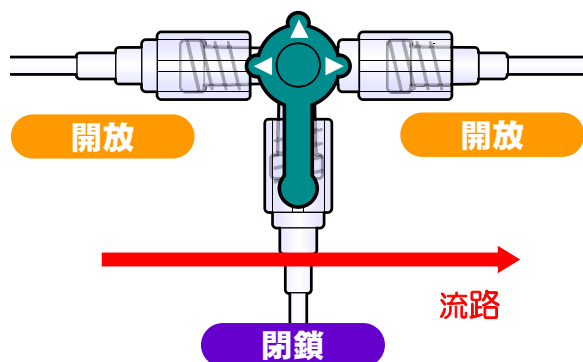


三方活栓の種類・形状・機能による違いについて



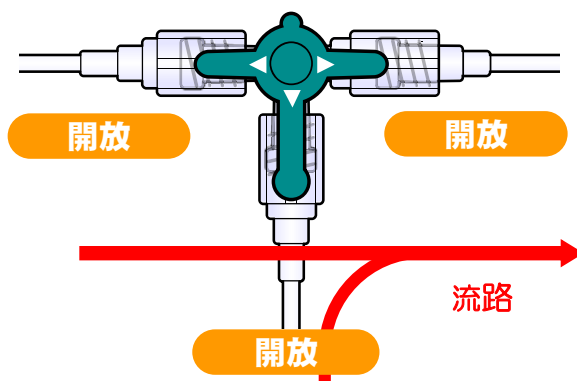
1バertypeと3バertypeでは、
コック/バーの位置により、流路の閉鎖と開放が逆になります。
コック/バーと流路を必ず確認しましょう。

1バertype



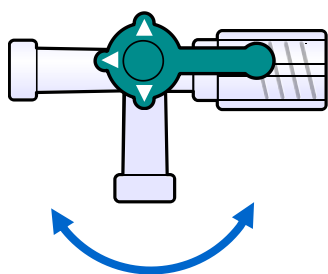
コック/バーのある位置が閉鎖となる

3バertype



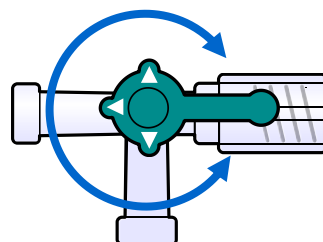
コック/バーのある位置が開放となる

180° 回転

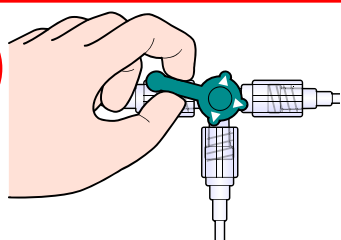


コック/バーの開放は2方向のみ

360° 回転



コック/バーの開放は3方向

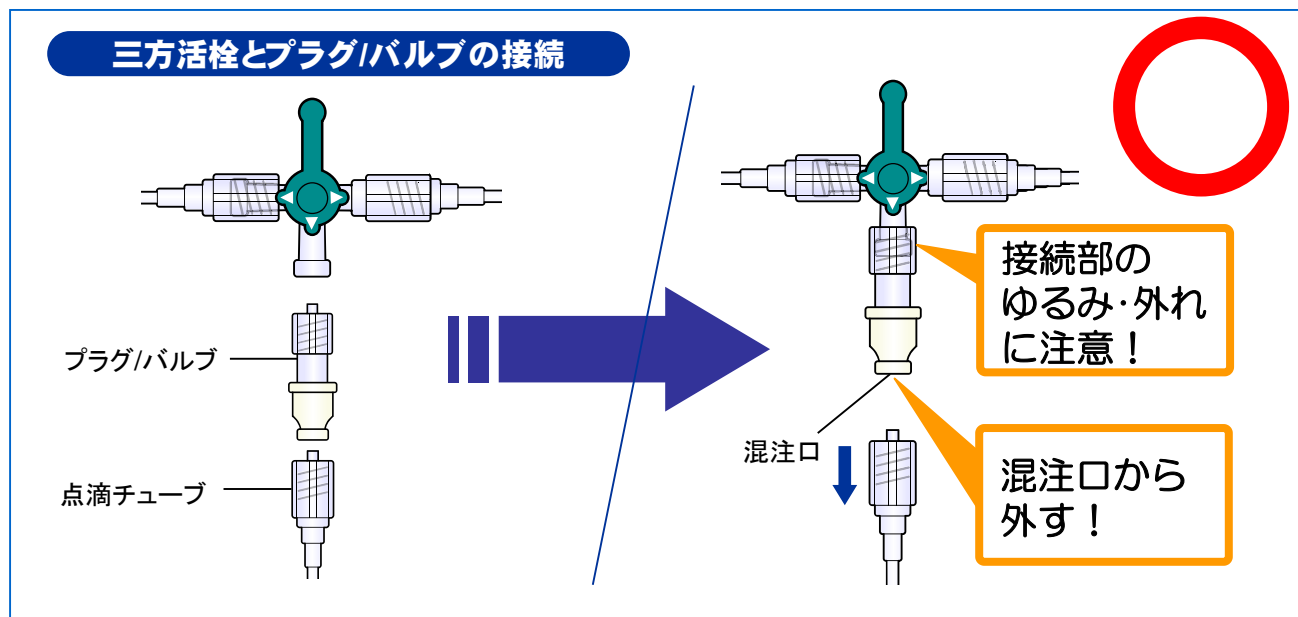
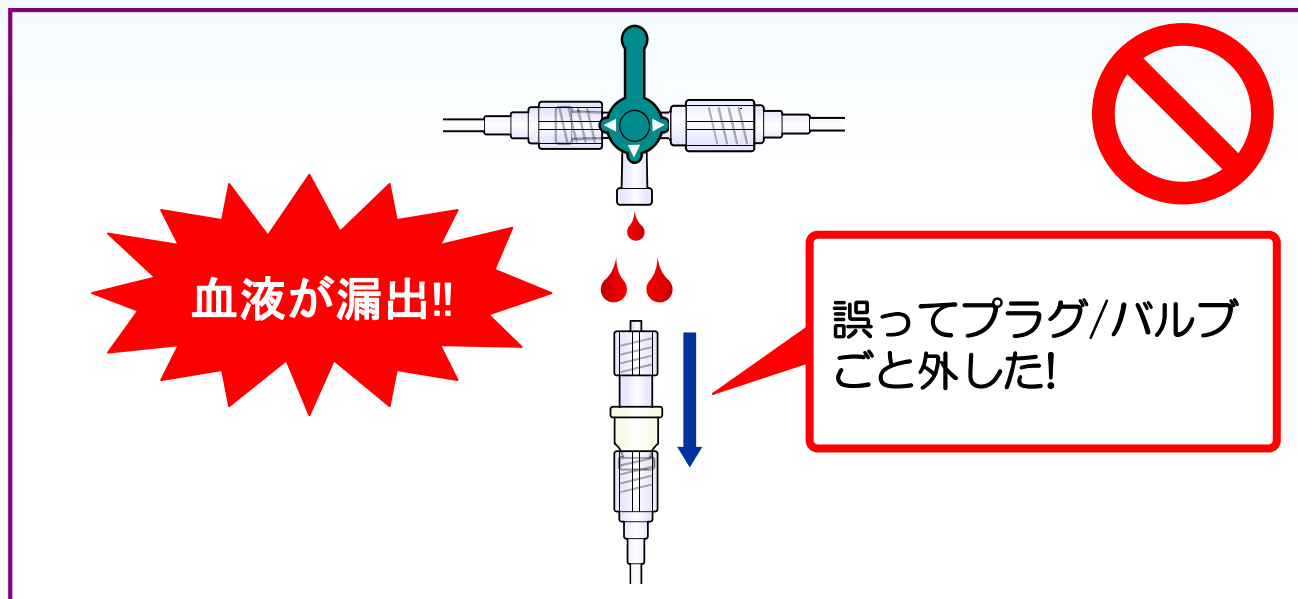


180° 回転のものは、コック/バーを
180° 以上回転させない！
(コック/バーが浮き上がり薬液が漏れる
可能性があります)

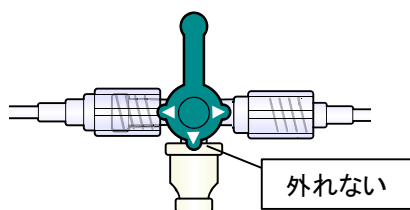
(事例3) 三方活栓に、プラグ/バルブと点滴チューブを接続し抗生剤を投与した。抗生剤投与終了後、点滴チューブを外す際に、誤ってプラグごと外し、患者の血液が漏出した。

2 三方活栓使用時の注意点 (その2)

- 三方活栓から点滴チューブを外す際は、誤ってプラグ/バルブごとを外さないように注意すること。



プラグ/バルブ一体型三方活栓



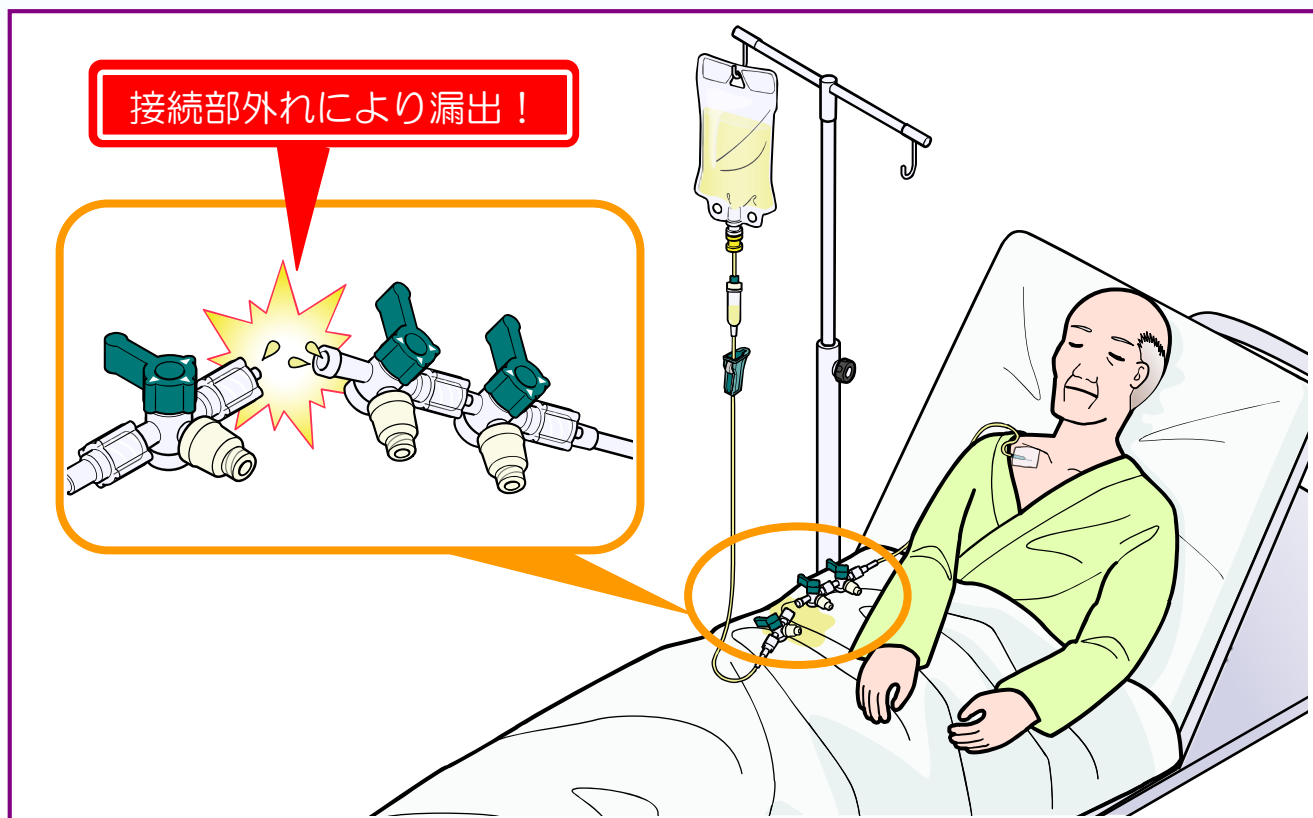
「プラグ/バルブ一体型三方活栓」もあります。使用されている三方活栓がプラグ/バルブ一体型か、一体型でないか、必ず確認しましょう。



(事例4) 中心静脈カテーテルに複数の三方活栓を接続して使用。ベッドをリクライニング後、しばらくして三方活栓同士の接続が外れ、血液と輸液が漏れているのを発見した。

2 三方活栓使用時の注意点 (その3)

- 三方活栓同士を接続して使用する必要がある場合は、身体の下等への挟まれや引っ張りによる接続部外れ、破損等に注意すること。
- 接続部のゆるみ、外れ、薬液漏れ等について定期的に確認すること。



三方活栓同士を接続して使用している場合には、破損や接続部外れの危険があります。三方活栓同士の接続・使用は最小限にしましょう。



本情報の留意点

- * このPMDA医療安全情報は、公益財団法人日本医療機能評価機構の医療事故情報収集等事業報告書及び医薬品、医療機器の品質及び安全性の確保等に関する法律に基づく副作用・不具合報告において収集された事例の中などから、独立行政法人医薬品医療機器総合機構が専門家の意見を参考に医薬品、医療機器の安全使用推進の観点から医療関係者により分かりやすい形で情報提供を行うものです。
- * この情報の作成に当たり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。
- * この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではなく、あくまで医療従事者に対し、医薬品、医療機器の安全使用の推進を支援する情報として作成したものです。

どこよりも早くPMDA医療安全情報を入手できます！
登録はこちらから。

